

上部消化管内視鏡検査に関する説明と同意書

患者氏名（ 様 ）

【目的・方法】

食道、胃、十二指腸の疾患を診断するための検査です。まず、のど（鼻からの場合は鼻とのど）を麻酔し、ご希望により鎮静剤を注射します。その後、内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら食道・胃・十二指腸を観察します。必要に応じて、粘膜組織の採取を行う場合があります。検査時に異物がみられた場合には異物除去術を行うことはあります。強い咽頭反射や合併症が起こる場合は検査を中止することもあります。麻酔薬のアレルギーがある方は事前にお申し出ください。

【合併症（併発症）】

本検査において下記に合併症が報告されています（過去5年の消化器内視鏡学会全国調査）。ただし、上部消化器内視鏡検診による癌の発見率は一般に 0.5～0.9%と言われており、病気の怖さを考えれば、検査を受けるメリットの方がはるかに大きいといえます。

- ① 内視鏡による消化器粘膜の出血・穿孔発生頻度：0.005%（2万人に1件）
② 検査に伴うショック（血圧低下など）、薬のアレルギーなど発生頻度：0.004%（2万5千人に1件）
③ その他

マウスピースを強く噛むことで、ぐらついている歯が折れたり欠けたりすることがあります。高齢な方などでは唾液の誤嚥により、遅れて肺炎を起こすことがあります。

偶発症が起きないように細心の注意を払い、検査を行います。万一上記の合併症が起きた時は、適切な処置を行います。入院が必要と判断した場合は、入院施設への転送、手配を行います。その際の診察も通常の保険診療で行われます。

以下の説明を受け、下記の項目に○を付けて署名をしてください。

同意します ・ 同意しません

年 月 日

患者もしくは代理人署名 ()